

1 大規模改修計画について

熊本市公共施設等総合管理計画実施計画において、令和9年度から河内出張所の大規模改修が計画されている。竣工から43年経過（増築から32年経過）するため、庁舎老朽化や使用頻度等を鑑み、施設の長寿命化に向けた庁舎改修は必須である。消防施設は機能停止や閉鎖が出来ないため、大規模改修（現在の長寿命化指針での）の際はいながら改修が困難であることから、改修内容の精査、仮設庁舎の必要性及び規模の検討が必要。

2 大規模改修コンセプト

(1) 老朽化への対応（長寿命化）

庁舎長寿命化に向け、既存庁舎を70年使用していく上で、消防庁舎は**24時間**職員が利用するため、他庁舎よりも老朽化が顕著である。（水回り、設備（空調・電気等）稼働時間考慮、床等の汚損等防止、省エネ化など）

(2) 職員の職場環境改善と機能向上（機能向上）

感染症対策として、令和4年度から仮眠室個室化（設計・工事）を進めている。今後も、職員の感染症対策はもとより、ストレス負担の軽減やプライベートの確保を考慮し、**現場で最大限の効果を発揮するための環境づくりが必要**。（仮眠室個室化未整備）消毒室の拡大（比較的小）や職員の増員予定や隊活動以外のグループ業務を鑑み、フリーアドレス化の導入等を進め、**より必要な居室を整備することで余剰スペースの有効活用**に繋がる。（事務室比較的大）

(3) 仮設庁舎の建設可能（コスト削減と条件）

本来はいながら改修もしくは庁舎閉鎖が前提であるが、24時間災害対応に従事しなければならないため消防庁舎は閉鎖が出来ず、仮設庁舎は必須である。河内出張所の広大な敷地を活用し、**仮設庁舎の建設が可能**。また、仮設庁舎と既存庁舎のベストミックスを検討することで、大規模改修工事を行いながら**業務継続も可能**である。

庁舎設備老朽化

例：仮眠室個室化

【大規模改修の目的】

大規模改修を実施することで、3つのコンセプトの達成を目指す。基本計画で改修内容の精査や仮設庁舎計画・コスト面等多方面で提案、協議を踏まえ、**ベストミックスを検討**することにする。

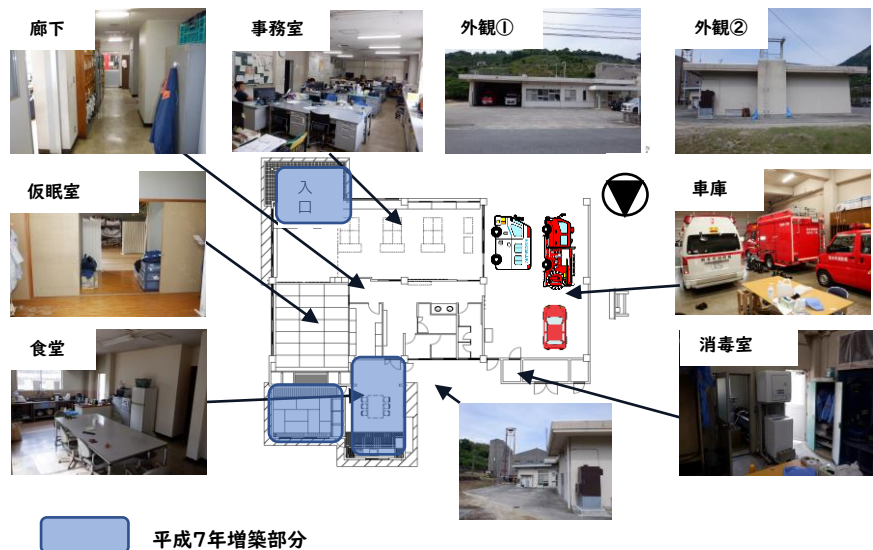
3 施設概要

昭和59年度（1984年度）に設置された。平成7年（1995年度）には増築工事を実施し、現在に至る。供用開始以後、河内校区・芳野校区を管轄し、火災・救急事案の対応はもとより、南東には金峰山、南西には有明海と山と海に囲まれ、山岳救助や水難救助にも出場する機会が多い。管轄面積は熊本市でも3番目の広さ（益城西原は除く）で、地域の防災拠点施設として管轄住民の安心安全を守る重要な消防施設である。（遠隔地のため、統廃合の予定はない。）



4 庁舎概要

所在地	熊本市西区河内野出1891番地1	延床面積	368.83㎡
敷地面積	3734.19㎡	構造・階数	鉄筋コンクリート造平屋建て
職員数	所長1名（日勤）+各部9名×2交代（隔日勤務）計19名		
車両配置	◆ ポンプ隊：小型水槽付きポンプ ◆ 救急隊：高規格救急車 ◆ 連絡車：ミニバン		
設備等	（居室）仮眠室・厨房・食堂・救急消毒室 （設備）自家発電設備（72時間）・浄化槽・ホース乾燥塔（現在無し）乾燥室・出場準備室・会議室		



平成7年増築部分

4 事業スケジュール

令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
庁内あり 方検討会	基本計画	基本・実施設計	大規模改修		